

【学年・単元名】

1年生 たのしいこといっぱい!!すてきいっぱい!! ~しょうがっこうは、たのしいね!!~

【経緯】

入学当初の子供たちは、大きな環境の変化に伴い、不安がつきまとい、自信を失いがちである。また、複数の園や所から集まっているため、集団としてのまとまりがなくばらばらの状態である。れ

そこで、まずは何としても不安を安心に変え、失った自信を取り戻して、一人一人が自己有用感をもち、自信をもって学校生活を送れるようにしたい。そして、お互いの素敵などところを見つけ合うことで、友達と共に生活する喜びを感じられるようにしたいとの思いから、単元を構想した。

【取組の実際】

①不安を安心に、そして自信へ

・ありのままを受容する

不安をありのままに受け止め、あらゆる場面で教師は急かすことなくじっくりと待つことを大事にした。



・安心できる教室をつくる

自分のやりたいことを自分で選び、取り組む時間の設定や、「やりたい」をすぐに実現できる環境設定をした。また、成果物を自由に掲示できるようにすることで、教室を安心できる居場所へと自分たちで作り上げることも行った。



・困りごとを共有する

困りごとや不安を共有し、解決方法をみんなで考える活動を取り入れた。

・安心から自信へ変わる瞬間を見守る

子供たちの「役に立ちたい」との思いや願いを見取り、後押しをすることで、当番活動や係活動につなげた。



②子供をつなぐ

・知らせてつなぐ

同じ興味をもつ友達や困っている友達の存在を知らせ、お互いがつながれるようにした。

・素敵な姿を共有する

学級全員の素敵な姿を写真に収め、コメントと共に廊下に掲示した。また、それぞれの成長や素敵な姿があった時には、学級全体で共有するようになった。

【取り組み後の子供たちの姿】

入学当初は涙を流すことが多かった児童は、困りごとの共有により、自分だけが不安を感じているわけではないと知り、安心する様子を見せた。その結果1ヶ月もしないうちに、学級のために役に立ちたいと行動できるようになった。



・当番や係活動で、仲間と意見を出し合いながら工夫を重ねたことが、自己有用感となり、自信をつけていくことになった。

・困っている友達がいると、「どうしたの?」「手伝おうか?」と優しく声をかけ、手助けする姿が日常的に見られるようになった。

・友達の素敵な姿を見つけ、お互いに褒め合えるようになった。

